

## 令和 5 年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題を踏まえ、重点課題の3項目について、課題解決に向けて当該分掌部が中心となり全教職員の共通理解を図りながら、取り組んだ。評価は以下のとおりである。

#### (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用

ICTの活用方法として、情報共有の促進やICT活用に関する研修会の設定により、授業で児童生徒の主体的な活動を引き出すために、ほとんどの教員がICT活用の実践に取り組むことができた。また、児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながるように授業改善の視点を定め、ICT活用の方法や内容、授業における児童生徒の様子、授業改善の成果、今後の課題などについて学年ごとに授業研究をすすめたことで、教員一人一人の授業改善への意識が高まり、ICT機器の活用により児童生徒の主体的・対話的で深い学びに結びつけることができた。

#### (2) 歯と口の健康に関する意識を高める

歯磨きに関する学習活動に全校で取り組み、動画や歯磨き学習用の人形の活用、歯周病や歯肉炎の写真の利用、歯磨きに楽しく取り組むためのアプリの活用などの実践により、丁寧に歯磨きする様子や、自分から進んでタブレット端末を取りに来て歯磨きに取り組む様子などが見られるようになった。また、「歯磨きチャレンジ週間」の設定により、個人目標を立てて歯磨きに取り組んだり、チャレンジ表にシールを貼ることを楽しみに丁寧に歯を磨いたりする姿が見られるようになった。

#### (3) 児童生徒が主体的に進路選択できるための進路支援の充実

障害福祉サービス事業所合同説明会は、移行支援事業所1か所については話を聞きに行く保護者がいなかったということがあったが、それ以外の事業所については、保護者や教員が話を聞きに行き、大変良い企画だったとの声が多数聞かれた。また、普段福祉事業所の方と話をする機会のない教職員にとって、進路先への理解を深めるよい機会となった。障害福祉サービス事業所ガイドブックについても事業所から大変情報量の多い良いガイドブックになっているとの評価を得ることができ、教職員の福祉事業所への理解を深めることにつながった。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その自立や社会参加に向けた主体的な学びを支援するためのアプリの充実や新たなICT活用の方法を工夫していく。
- (2) 児童生徒が主体的に歯磨きに取り組めるための教材やアプリ等を紹介し、引き続き学習に活用するとともに、主体的に歯磨きに取り組める機会や方法について検討していく。
- (3) 自立と社会参加に向けて、小学部入学前から高等部卒業後の生活をイメージすることができるように現在の取組の整理や新たな取組の検討が必要である。

(様式5)

8 学校アクションプラン

| 令和5年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 - |  |   |
|----------------------------------|--|---|
| 重点項目                             | 学習活動   |   |
| 重点課題                             | 主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用  |   |
| 現 状                              | <p>令和4年度より研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用」に設定して、効果的なICT活用の基本的な知識と技能の習得のため、教師自身が様々な実践例や文献等の研修を行った。その上で主体的・対話的・深い学びを実現するためのより効果的なICT活用の在り方を、各学習グループ・学年・学部等での授業改善の取組を行っていくことで、教師同士が共に学び合い高め合って、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行っていきたいと考えている。</p> <p>日々の授業改善の実践からICT活用への見識をより深め、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の工夫・改善を積み上げていくことで、児童生徒の自立と社会参加、ひいては学校課題である「『生きる力』を育む教育」につながると考える。</p>   |   |
| 達成目標                             | 児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための授業でICTを活用した教員の割合  | 授業でICT機器を活用して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに結びついたと考えた教員の割合  |
|                                  | 90%以上  | 1回目(7月) 60%以上<br>2回目(11月) 80%以上   |
| 方 策                              | <ul style="list-style-type: none"><li>ICT活用の実践例として「ICT活用事例シート」に具体的な活用例を集め、サーバー上で共有して授業で活用しやすいようにする。</li><li>1学期と2学期に各1回、授業改善の授業を実施してICT活用への見識を深めて授業で活用しやすいようにする。</li><li>夏季休業中などにICT活用に関する研修を受講し、理解を深め授業改善に生かす。</li></ul>  |   |
| 達成度                              | 児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための授業でICTを活用した教員の割合  | 授業でICT機器を活用して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに結びついたと考えた教員の割合  |
|                                  | 90.3%  | 1回目(7月) 97.5%<br>2回目(12月) 94.5%   |
| 具体的な取組状況                         | <ul style="list-style-type: none"><li>ICT活用の実践例として「ICT活用事例シート」に具体例を集めてサーバー上で共有し、授業で活用しやすいようにしたり、夏季研修会等でICT活用に関する研修の機会を増やしたりした。</li><li>1学期は、学校訪問研修会に向け児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながるように授業改善の視点を定め、ICT活用の方法や内容、児童生徒の学びの姿(授業における児童生徒の様子、授業改善の成果、今後の課題)など学年ごとに授業研究をすすめた。授業研究の際には、ワークショップ形式の話合いを導入して、活発な意見交換を促すことができた。</li><li>2学期は、学校訪問研修会での助言や課題等を反映した授業研究を学年ごとにすすめ、授業研究の際には、ワークショップ形式の話合いを中心にICTを活用した話合いを導入した学年もみられ、効率の良い活発な意見交換の工夫もみられた。</li></ul> |   |
| 評価                               | A  | <ul style="list-style-type: none"><li>情報共有を促進したりICT活用に関する研修の機会を増やしたりしたことで、授業で児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するためにICT活用を実践している教員がほとんどとなり、目標を達成できた。</li><li>児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながるように授業改善の視点を定め、ICT活用の方法や内容、児童生徒の学びの姿(授業における児童生徒の様子、授業改善の成果、今後の課題)などについて学年ごとに研究をすすめた。教員一人一人の授業改善の意識が高まり、ICT機器を活用することで児童生徒の主体的・対話的で深い学びに結びつけることができたと考えた教員が多数となった。</li></ul> |
| 学校評議員の意見                         | <ul style="list-style-type: none"><li>発達段階に応じたアプリケーションソフトは大変有効だと感じている。学校で使用しているアプリや児童生徒に良いと思われるアプリについていろいろと発信してほしい。</li></ul>  |   |
| 次年度に向けての課題                       | <ul style="list-style-type: none"><li>児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その自立や社会参加に向けた主体的な学びを支援するためのアプリの充実や新たなICT活用の方法を工夫していく必要がある。</li></ul>   |   |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

|            |   |  |          |
|------------|---|--|----------|
| 重点項目       | 学校生活  |  |          |
| 重点課題       | 歯と口の健康に関する意識を高める  |  |          |
| 現 状        | <p>本校では、換気をする、洗面所の密を避けるなどの新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をしながら、児童生徒の実態に合わせて歯磨き指導をしている。しかし、ここ数年、染め出しによる指導や教師の仕上げ磨きを行っていないためか、歯磨きする場所が偏っていたり、磨く時間が短かったりして磨き残しが多くの児童生徒に見られ、正しい歯磨きをするという意識の低下が懸念される。また、歯科検診で歯肉炎と診断される児童生徒も多い。</p> <p>そこで、正しい歯磨きの仕方や歯の大切さを知る機会を設け、児童生徒が歯の健康に関する意識を高め、主体的に歯磨きができるような取り組みをしたいと考える。学級等で、実態に応じた歯磨きに関する教材やキャラクター等が登場する動画などを用いて学習活動を行い、歯の大切さや正しい歯磨きについての知識の習得をねらいたい。</p> |  |          |
| 達成目標       | 歯磨きに関する学習活動を1回以上実施した学級の割合   | 「歯磨きチャレンジ週間」の個人目標を達成できた児童生徒の割合   |          |
|            | 100%  | 7月：70%   | 10月：90%  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で歯磨きに関する授業を行うための歯磨きに関する教材やインターネット上のコンテンツ等を紹介する。</li> <li>1学期と2学期に各1回、1週間の「歯磨きチャレンジ週間」を設け、「奥歯を10回磨く」「3分間歯磨きをする」など、児童生徒の実態に応じた個人目標を立てて取り組めるようにする。</li> <li>歯磨きチャレンジ週間において主体的に歯磨きをしたり個人の歯磨きスキルを高めたりできるよう個々のチャレンジ表を作成し活用してもらう。</li> </ul>   |  |          |
| 達成度        | 歯磨きに関する学習活動を1回以上実施した学級の割合   | 「歯磨きチャレンジ週間」の個人目標を達成できた児童生徒の割合   |          |
|            | 100%  | 7月：99.6%   | 10月：100% |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で実態に応じた歯磨きに関する授業を行うために、歯磨き教材の貸出しや歯磨き絵本コーナーの設置、アプリやインターネット上のコンテンツ紹介を行った。</li> <li>1学期と2学期に各1回、「歯磨きチャレンジ週間」を1週間ずつ行った。「先生と一緒に奥歯を5回磨く」「歯と歯の間を丁寧に磨く」「動画を見ながら3分間磨く」など、一人一人が目標を決め、個々のチャレンジ表を作成して取り組んだ。</li> </ul>  |  |          |
| 評価         | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>歯磨きに関する学習活動を1回以上実施した学級の割合は100%となった。動画を見ながら人形の歯と一緒に磨く、歯周病や歯肉炎の写真を食い入るように見る、アプリを活用して、いつもより時間を掛けて丁寧に歯磨きする、給食を食べ終わると自分から進んでタブレットを取りに来て歯磨きに取り組むなど、児童生徒の歯磨きへの関心が高まり、歯磨きを積極的に行う姿が見られた。</li> <li>「歯磨きチャレンジ週間」の個人目標を達成できた児童生徒の割合については、1回目は99.6%、2回目は100%となった。目標を具体的に設定することで、目標を意識して歯磨きに取り組んだり、チャレンジ表にご褒美シールを貼ることを楽しみに丁寧に歯を磨いたりする姿が見られた。</li> </ul> |          |
| 学校評議員の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なアプリ等の紹介により、児童生徒の実態に応じた取組ができてよかった。</li> <li>一番大事なのは、家庭での夜寝る前の歯磨きである。学校で歯磨き体験をしっかりと行い、家庭と連携して将来につなげていくことが大切である。</li> </ul>  |  |          |
| 次年度に向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が主体的に歯磨きに取り組めるための教材やアプリ等を研究し、引き続き学習に活用するとともに、主体的に歯磨きに取り組める機会や方法について検討をしていく必要がある。</li> </ul>  |  |          |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

|            |  |   |
|------------|--|---|
| 重点項目       | 進路支援   |   |
| 重点課題       | 児童生徒が主体的に進路選択できるための進路支援の充実   |   |
| 現 状        | <p>卒業後の進路についてイメージをもち、主体的に進路選択できるように小学部5・6年から保護者対象の進路説明会を実施してきた。また昨年度は「障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版」に26事業所を加え98事業所の情報を掲載し、保護者、教職員、協力事業所に配付した。</p> <p>今年度は児童生徒や保護者が主体的に進路選択できるように、「障害福祉サービス事業所合同説明会」を実施し、障害福祉サービス事業所職員と保護者が直接情報交換する機会を設ける。</p> <p>また、小・中学部教職員は卒業後の生活について知る機会が少なく、卒業後の生活を見据え今すべきことは何かという視点を持ちづらい状況である。そこで「障害福祉サービス事業所合同説明会」に参加したり、「障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版」を授業や進路相談懇談会等で活用したりして目にすることで多くの進路先の特徴を知り、卒業後の生活をイメージして日々の学習や生活支援につなげていけるようにしていきたいと考える。</p> |   |
| 達成目標       | 障害福祉サービス事業所合同説明会に参加し、教職員が障害福祉サービス事業所合同説明会への参加や障害福祉サービス事業所ガイドブックを利用し、福祉事業所の理解を深めることができた割合。  | 100%  |
|            | 100%   | 100%  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山圏域の障害福祉事業所が参加する「障害福祉サービス事業所合同説明会」を実施する。</li> <li>・進路支援部の掲示板や事業所情報棚を活用し、障害福祉事業所の情報を得られるようにする。</li> <li>・教職員の進路学習会の中で「障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版」を利用して、障害福祉サービスの特色について説明する。</li> </ul>   |   |
| 達成度        | 障害福祉サービス事業所合同説明会に参加した事業所・保護者で参加してよかったと回答した割合   | 障害福祉サービス事業所合同説明会への参加や障害福祉サービス事業所ガイドブック等を利用することで、福祉事業所の理解を深めることができたと回答した教員の割合。   |
|            | 事業所 98%<br>保護者 100%  | 81%   |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に障害福祉サービス事業所を開催し、47事業所、保護者58名と教職員約60名の参加があった。各事業所のブースを自由に回る形を取り、90分の時間の中で保護者や教員が事業所の説明を聞いた。</li> <li>・事業所の情報が得られやすいように、事業所のパンフレットや機関誌が置いてある掲示板を地域ごとや事業形態ごとに整理した。</li> <li>・教職員の進路学習会で、「障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版」の見方を説明した。</li> </ul>   |   |
| 評価         | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉サービス事業所合同説明会の事後アンケートでは、就労移行支援事業所1か所が「就労移行支援事業所の話を聞きに来てくれる保護者がいなかった」という理由で「どちらでもない」と回答したが、それ以外はすべての事業所・保護者・教員が「よかった」と回答し、満足度が高かった。</li> <li>・教職員が福祉事業所の理解を深めるという目標については、「合同説明会に参加できなかった」や「ガイドブックを利用する機会がなかった」などの理由から「できなかった」や「どちらでもない」との回答があった。所属の学部や学級担任かどうかなど、児童生徒と関わり方で「できた」と答えられないケースもあるため、100%の達成は難しかった。</li> </ul> |
| 学校評議員の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部段階から将来について考えていくことは大切であり、障害福祉サービス事業所合同説明会はよい機会であったと思う。保護者の満足度も高く、これからも多くの保護者に参加してほしい。また、教師の意識向上に役立ったと思う。自立と社会参加を考えながら学習の支援をしていくためにも、教職員は高等部卒業後の生活を知っていくことが大切である。</li> </ul>  |   |
| 次年度に向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加に向けて、小学部入学前から高等部の卒業後の生活をイメージすることができる取組について、現在行っている取組を整理したり、新たな取組を検討したりする必要がある。</li> </ul>   |   |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)